

## 第9回チベットセミナー／第27回年次大会を開催

能海寛研究会主催の「第9回チベットセミナー」が7月10日午後1時30分より、金城町波佐・ときわ会館において開催された。開会セレモニーに続き、岡崎秀紀会長が『1900年前後の打箭爐の風景—能海のスケッチと仏人宣教師の写真—』を講義。午後2時から、大谷寿一監督製作のドキュメンタリー映画『ケサル大王伝』を研究会用に編集された最新版が放映された。この映画は、ケサルシリーズは2006年四川省デルゲから取材を開始して、2013年に「ケサル大王」(第1作)、2015年に「天空の大巡礼に行く」(第2作)、2019年に「最後の語り部たち」(第3作)を発表。これらのドキュメンタリー取材テープ250時間以上を2時間に纏められたものです。

7月11日午前10時より、「第27回年次大会」をときわ会館で開催され、議案5件が原案通り承認されました。特に、コロナ渦の中で定例学習会は、ときわ会館で開催することが前提であるが、集会制限が発出された場合は、リモートによるZoom会議に変更する可能性があることが了解された。事前にメールアドレスを事務局(sekihou@hazaway.com)へ登録しておけば参加できます。

総会後の会員研究発表は、岡崎秀紀氏が『フランス人宣教師の記録(最新情報)—能海の最後を語った宣教師を探る』を発表された。

昼食を挟んで午後からは、昨年、25周年記念フォーラムが中止されたため、今回、「研究会25年の歩み」のパワーポイントによる記録映像を視聴し、発足当初からの活動経過を振り返った。

午後2時から、記念講演として、島根県立大学理事長兼学長・清原正義氏による「島根県立大学の挑戦」と題してご講演が行われた。県立大学の地域貢献、地域研究の取り組み、研究会との連携についてもエールを贈られた。午後4時から、雲南民族大学教授の何大勇氏のオンライン講演「私の能海寛研究」と題して行われました。能海の研究論文を多数発表されている中国における能海寛研究の第一人者である。



講演中の清原学長



記念講演の様様



オンライン講演と会場